

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770101319		
法人名	社会福祉法人創世福祉事業団		
事業所名	グループホーム「耀きの郷」		
所在地	福島市山口字七口13-1		
自己評価作成日	2020年8月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、キリストの愛と奉仕の精神で真心込めた接遇を刺せて頂く共に、専門のスタッフによる、きめ細やかな介護体制でお世話させていただきます。また基本理念といたしましては、ゆっくり、ゆったり、楽しく、一緒にを掲げ、認知症のお年寄りをありのまま受け入れ、穏やかに健康で明るい生活を送れるように支援いたしております。お年寄りの方が一方的に介護を受けられるのではなく、職員とともにご自分のペースで、またできる範囲で日常生活にかかわって頂き、生きがいを持てるよう支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.月2回、社用車で片道30分程度で行ける公園や足湯温泉等への外出と外食等をしていたが、コロナ禍により中止となっている。そのため、3密に配慮しながら、ミニ運動会・ゲーム・ちまきづくり・お好み焼き・豚汁・太巻き寿司等利用者の気分転換が図れるよう、工夫して支援している。
 2.職員の定着率が高く10年以上の勤続者が半数以上占め利用者との馴染みの関係や信頼関係が築かれ、家庭的雰囲気の中で「ゆっくり、ゆったり、一緒に、楽しく」という理念に基づき、穏やかな生活が出来るよう努めている。
 3.コロナ禍で面会を制限しているが、利用者毎にアルバムを作成し親族等との面会時に活用して話題を提供している。また、家族の意向に沿って事業所だよりを遠方の親族へも送付し、馴染みの人との関係が継続できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念でもある「ゆっくり、ゆったり、楽しく、一緒に」を心がけ、ご利用者様の個々に応じた自立支援ができるように努めている。	法人の基本理念に基づき、事業所独自の理念を策定している。全員が法人の行動規範(クレド)を携帯し、浸透を図っている。また、事業所理念は玄関・食堂・事務室など多くの場所に掲示し、周知徹底を図っている。毎年、職員で話し合い理念に基づく年度目標を定め、理念の共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの皆様、行事の際の付き添いや参加、買い物の手伝いなどを行って頂いている。昨年は台風19号でホームが床上浸水の災害を受け後片付けをして下さった。また新型コロナウイルス感染防止のため少しの間、買い物の手伝いはお休みせざるを得なかった。	毎年、事業所の夏祭りに地域住民を招き交流を図っている。また、地域の祭りでは神輿が事業所に立ち寄り、祭り囃子を披露してくれている。さらに、地域のボランティアグループが13年前から週に1回、食料品などの買出しの手伝いをしてきているなど、地域住民との継続的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし会議に参加された方への支援を行っていたが、新型コロナウイルス感染防止のため会議を開催できず、活かしてきていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き意見交換を行い、サービス向上につなげたいと思っているが新型コロナウイルス感染防止のため運営推進会議を開催できず今年になってからは意見を頂けていない。	運営推進会議は、隣接している同一法人のデイサービスと合同で開催している。会議では、事業所からの報告に続き、委員から様々な意見が出され、事業所玄関前の段差解消を図るなど運営等に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の要介護更新の手続き、質問事項、業務連絡など協力して頂いている。また地域包括支援センター職員との情報交換を行っている。	日頃は、介護保険等で疑義が生じた場合に電話で市の担当者と相談をしたり、地域包括支援センターを通じて、連携を図っている。また、利用者の要介護認定の更新手続きなどで市役所を訪問した折りに担当者と情報交換を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修参加の他、施設内で行っている身体拘束廃止委員会へ参加し、会議で内容の周知を職員全員で行っている。	年1回、チェックリストによる自己チェックを全員で実施し、その集計をもとに事業所内で研修を実施している。また、身体拘束廃止委員会を毎月開催し、その結果を回覧するとともに、2か月に1回は勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修参加の他、施設内で行っている虐待防止委員会への参加し、会議での内容の周知を職員全員で行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を必要としている方はおられず、外部研修会の機会もなかった。今後職員全体で学ぶ機会を持つようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の読みあわせを行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の氏名連絡先を契約書に表記し、苦情に対しても迅速に対応、事実関係の調査の実施改善措置、利用者様ご家族様に対する説明、記録の整備などを講じます。	利用者の意見は、日頃の会話を通して把握に努めている。また、家族の意見は面会時に職員の方から声かけを行い、話を伺うようにしている。さらに、夏の家族懇談会とクリスマス会において、利用者、家族と職員が一緒に会食する機会を設け、家族等の意見の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見提案が言える雰囲気を作っているつもりだが、直接言えずに職員連絡帳に書いている職員もあり、早めに反映させるようにしている。	職員の意見は、申し送りや職員会議の時に聞くようにしている。普段の業務のなかで、職員の方から意見を言うことが多い。また、意見などを自由に記載できる職員連絡帳を通して、職員の意見や要望の把握に努めている。出された意見や要望は速やかに対応するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続表彰や、特別表彰などを行い、また資格取得に向けた取り組みを行っている。昨年度、創世介護学院が開設され、介護福祉士実務者研修に職員を参加させるなど努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り法人内外の研修会への参加を設け、研修を受けて頂いているが、新型コロナウイルス感染防止のため今年度は感染状況を見ながら参加を決めたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO法人福島県認知症グループホーム協議会に入会し、研修会への参加や管理者会議などで他の事業所との交流を行っていたが、新型コロナウイルス感染防止のため研修会や会議などが中止となり、電話などでの情報交流を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にホームの見学をして頂いたり、ご本人様とお会いして、話を伺うなど安心してご利用できるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込に来られた時から話を伺い、ご家族の希望や要望を受け止め、ケアに反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様から意向を伺っているほか、入所されてからのご様子を見ながら、ケアプランを作成し、ご利用頂くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で掃除や食事準備を手伝って頂いている。また、利用者様同士での会話がスムーズに出来るよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りや近況報告を毎月発行し、面会日を設定しやすいように配慮し、訪問された際は、居室や面会室でゆっくり話ができるようお茶、お菓子を提供しているが、新型コロナウイルス感染防止のため現在は、短時間の面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスが発生してからは、面会の制限をさせて頂いているので、親戚の方や知人の方の面会、外出支援が出来ず、電話したいと申し出があればつなげて頂いています。	家族の協力を得て、帰省や墓参りなどを行っている。また、申し出により電話をつなぎ、家族等との交流ができるよう支援している。さらに、毎月、家族へ発送している事業所だより等を家族の要望により県外に住む親族等へも送付し、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事を企画し参加して頂いたり、レクリエーションに参加して頂き、コミュニケーションを図って頂くなど楽しめるよう努めている。また職員が仲立ちをしてトラブルにならないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別養護老人ホームや老人保健施設に移動されてもこれまでの経緯を担当者に報告し、できるだけ今までの生活が変わらないよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	皆さんと雑談をしている時や居室に伺った時などお聞きし、意向の把握に努めている。	担当職員が家族から得た情報に加え、センター方式を活用し、職員で話し合っ利用者への思いや意向の把握に努めている。また、居室や入浴時など利用者とゆっくり話しができる場面を通して、利用者の思いや本音の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、できる限り以前の生活に近づいた暮らしができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡帳、カルテ参照でお一人お一人の体調確認をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の方から意向を伺うとともに、担当者がモニタリングシートに記入し計画作成担当者がそれを参考にケアプランを作成している。	ケアプランは、作成する前に郵送により家族に意向を確認し、それに基づき担当職員と原案を作成し、ケア会議で職員全員で検討のうえ作成している。モニタリングは、ケア会議で管理者・ケアマネジャー・職員で話し合っ実施している。短期目標は3か月ごとに見直しを図っているが、変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録を作成し、日勤帯は黒のボールペン、夜間帯は赤のボールペン、特変があった際は青のボールペンで記入し情報共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日によってご利用者様の身体状況が変わる時もありご本人の希望を伺いながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの皆様と協力を得て、行事などを行っていましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、現在はホームの食材買い出しの手伝いのみでご利用者様には直接の支援は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族様のご理解を得て、地域の医療機関に毎月全員の方をお連れし、診察を受けて頂いている。また毎年市民健診を受けて頂いている。	入居時、本人・家族の希望により受診先を決めているが、内科については緊急時に備え、家族の了解を得て協力病院で受診をしている。かかりつけ医の場合家族対応とし、通院時に担当職員が詳しく書いた日々の記録を持参し、主治医へ報告している。受診結果の報告を受け、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師はおらず、体調変化があった際は、かかりつけ医に連絡し診察して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医が入院した方が良いと判断した場合はご家族様の意向の病院に紹介して頂き、入院治療を受け、病院関係者と情報の交換や相談を行い、早期の退院を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応指針」を作成し地域資源を鑑みご本人様、ご家族様、地域包括支援センター等と連携を取りながら支援している。	入居時に、利用者・家族へ指針に基づいて、事業所でできることを説明し同意を得ている。終末期の早い段階に、家族・主治医・事業所と話し合い、医療機関への入院や高齢者施設への入所等、本人・家族の希望に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内外の研修会や勉強会に参加し、対応できるようにしているが、今後も引き続き研修や勉強会に参加し万が一に対応して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を行うほか、施設独自の消防訓練に参加している。また年に1回は消防署の職員に来て頂き隣接の特別養護老人ホームと合同で、消防訓練を行っている。	年1回、消防署立会による総合避難訓練を実施し、毎月1日に、日中・夜間・地震・風水害の訓練を行っている。また、避難通路が非常口から隣接の高齢者施設へスロープでつながり、非常時は高齢者施設の職員と連携し、安全確保に努めている。事業所と高齢者施設に災害時の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月行われているサービス向上委員会に参加し、施設全体で接客サービスの向上に努めているが、時に不適切と思われる言葉かけをした際はお互いに注意しながら対応した。	毎月、事業所が属する複合施設のサービス向上委員会で、接遇・対応について研修や話し合いを行い、年1回のアンケートを実施し、事業所内での伝達研修を通して意識向上の取り組みをしている。また、行動規範のクレドを常に携帯し、一人ひとりを尊重する対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話を伺い思いに添えるよう努力しているが、現在新型コロナウイルス感染防止のため、ご家族様との外出等ができていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をどうしたいのかわからない方が多いため、日課としてラジオ体操、レクリエーション、嚙下体操、リハビリ体操等を取り入れ参加促している。また、居室で折り紙などをされる方もおられ、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度理美容を行って頂いている他、衣類等は家族の方をお願いして補充して頂いている。また起床時の洗顔や口腔ケアなども声がけして行って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	できる範囲で食事の下準備やお茶入れ等を手伝って頂き、食事は職員も同じものを摂取している。現在は新型コロナウイルス感染防止のため、食事をしながらのおしゃべりを控えている。	食材を地域の店で購入し、食材や利用者の好みに合わせて調理し栄養士の資格がある介護職員がカロリー計算を行っている。利用者ができる範囲で、テーブル拭き等を手伝い、職員と共に食事をしているが、コロナ禍により席の向きを変えた事への不安に配慮した支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、カロリー計算を行い、食事量や水分量も記録している。また水分はお茶の他、コーヒー、カルピス、ウォーターメイト、紅茶、ミルク等を提供し、摂取を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に毎回、口腔ケアを行い、月1～2回の割で歯科往診の診察を受けている方もおられる。自力でできない方は職員が歯磨きを介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他、声がけして誘導している。夜間帯はポータブルトイレを使用している方もおられる。	センター方式を活用し排泄パターンを把握した誘導や定時誘導支援をしている。夜間は、ポータブルトイレを利用している方もおり、センサーマットを活用し安心・安全な対応をしている。排泄の自立へ向けた支援を行い現在、昼夜ともオムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日フルーツヨーグルトを提供している他、水分摂取、運動を心掛けている。頑固な便秘の方は、医師の指示に従い下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は事故防止のため、職員数を多くし、週に2～3回でその他の日は陰部清拭と足浴を行っている。	入浴は週2～3回を基本とし、着脱は出来るところをやっていただきADLが低下しないように心掛け、入浴剤や菖蒲、差しの柚子を風呂へ浮かべ季節を楽しんでいる。入浴を拒む方へは、声掛けの方法や職員を変えるなど工夫し、ゆったりと入浴できる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めず、ご本人のタイミングで居室に誘導している。また、日中も休めるよう声がけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示に従い服薬介助をしている。服薬で変化見られた場合は、医師に連絡を取り、指示を受けている。定期受診の際は、日々の様子を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で生活リハビリに参加して頂き、行事やレクリエーションへの参加を支援している。今までは、ボランティアの方々とふれあいを行っていたが、新型コロナウイルス感染防止のため現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは毎月外出行事を行い、見学や食事会を行ったり、ご家族様との外出もして頂けたが、現在は、新型コロナウイルス感染防止のため、外出行事を行っていない。	月2回、社用車で片道30分程度で行ける公園や足湯温泉等への外出と外食等をしていたが、コロナ禍により中止となっている。そのため、3密に配慮しながら、ミニ運動会・ゲーム・ちまきづくり・お好み焼き・豚汁・太巻き寿司等利用者の気分転換が図れるよう、工夫して支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている方はおられない。新型コロナウイルス感染防止のため、買い物での外出もできないのでご家族様に管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された際は電話でお話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の壁面には毎月手作りの飾りを貼り楽しんで 頂いている。	中庭を中心に回廊式になっており全体的に明るく感じられる。リビングは、季節を感じられる作品を貼り、窓辺に花や鉢を飾り、利用者が好む歌番組の録画を流している。廊下は、折り紙やカレンダーを工夫した絵を貼っている。室温、湿度を職員が管理し心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファを置いたりホームのあちこちに腰かけられるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご利用様にはなじみの家具や小物などの持ち込みをお願いしている。	居室には、ベッド・整理タンス・ロッカー・床頭台・一人用の椅子・テーブル等が準備されているが、慣れ親しんだベッドや筆筒等の持ち込みは自由となっており持参している方もいる。自分で作成した作品や家族写真を飾り、位牌を置いている方もおり、その人らしく暮らせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで車椅子でも生活が送れるようにしており、トイレの場所や、ご自分の居室がわかるように表示している。		